

世界のコンクール便り Vol.6

文・写真◎アーリンク明美(ピアニスト/アーリンク=アルゲリッチ財団)

from
Finale Ligure (Italy)

ファイナル・リグレ
(イタリア)

第40回 パルマドーロ国際ピアノコンクール

世界で最もピアノコンクールが多い国、イタリア。各ピアノコンクールを訪ねながら、イタリアを歩いて縦断できるとまで言われている。その中で、美しきリヴィエラ、フランスとの国境に近いファイナル・リグレで毎年開催されている「パルマドーロ国際ピアノコンクール」は、作曲者アロイーゼ・ヴェッキアート氏により1974年から始まり、今日に至る。ヴェッキアート生誕100年記念、第40回目を迎えた今年のコンクールは、8月27日〜30日に行われた。

興味深いことに、これまでに日本人の入賞者が多い。日本ピアノ界の第一線で活躍中の今井颯、小山西京子、花岡千春、三輪郁諸氏らが名を連ねる他、3年前にジュネーヴで優勝した萩原麻未さんも、13歳の時に史上最年少優勝している。その入賞者の中のひとり、関孝弘氏は、ヴェッキアート氏の意思により、2005年から審査員長を務められている。

今年の第1位は、リスト《バガニニ大練習曲集》全曲などを卓越した技巧とセンスで演奏したユ・チェギョン(韓国)。色彩豊かな美しい音とユーモアで聴衆を惹きつけたサーシャ・グリニク(ウクライナ)と、作品の性格を巧みに弾き分けて楽しませてくれたデニス・ジダーノフ(ウクライナ)が

第3位を分けあつた。

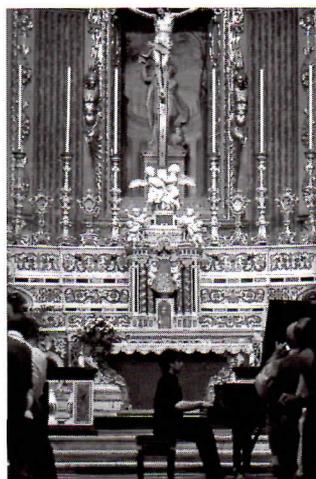
他のファイナリストは、推進力のあるスカラルラッティなどを演奏した安藤真野さんと、20世紀以降の曲が特に良かった若井亜妃子さん。西本夏生さんのベートヴェンのソナタ第3番もおもしろかつたのだが、ファイナル進出を逃した。ファイナルでは、ヴェッキアート氏の作品も課題となり、こちらの最優秀

演奏者に与えられるヴェッキアート賞はグリニクが受賞した。

来年も同じ時期に開催予定。詳しくは www.concorsopalmdoro.com/ を。ここからヴェッキアートの楽譜の1部がダウンロードでき、また全音楽譜出版社より『ピアノ叙情小曲集』も出版されている。レパートリーに取り入れてみては？



サン・ジョヴァンニ・パティスタ大聖堂での入賞者コンサートで演奏するジダーノフ。彼のシューマン(トッカータ)は、みごとだった



入賞者コンサートでのグリニクのヴェッキアート(Meditazione (瞑想))には、鳥肌が立った。「聖堂からインスピレーションを得た」とは、本人の弁



ファイナリストの女性陣。左から安藤真野さん、第1位のユ・チェギョンさん、若井亜妃子さん